

モーダルシフト船の運航情報等一括情報検索システム

出典:「第3回モーダルシフト船の運航情報等一括情報検索システム構築WG」 配付資料
国土交通省海事局内航課

http://www.mlit.go.jp/maritime/maritime_fr3_000014.html

システム構築に向けた基本的な考え方

システム構築の位置づけ

- 海運へのモーダルシフトについては、「交通政策基本計画」(平成27年2月13日閣議決定)に基づき、平成32年度までにモーダルシフト貨物の海上輸送量を24年度比10%増の367億トンキロとする目標を達成することが必要。
- 海運へのモーダルシフトの一層の推進により内航海運の新たな輸送需要を掘り起こすことは、安定的輸送の確保や物流全体の生産性向上を図る観点からも重要である。
- しかしながら、現状では荷主企業等における海上輸送に対する認知・理解が十分でなく、かつ、必要な情報も利用しにくい状況にあるため、荷主企業や物流事業者の一層の理解・協力促進、海運を利用しやすい環境整備を図ることが課題。
- このため、「内航未来創造プラン」(平成29年6月公表)に基づき、「海運モーダルシフト推進協議会」において海運へのモーダルシフトの更なる推進に向けた具体的な取組について議論を行い、その取組の一つとして、モーダルシフト船の運航情報等を集約し、荷主等の利用者が利用できる情報検索システムの構築について検討する。

システムの基本コンセプト

- 海運の短期顧客を含め、今まで海運をあまり利用してこなかった者に対して海運利用の最初の入り口としてシステムを活用してもらうことを主眼としつつ、長期顧客や普段海運を利用している者に対しても新たな経路の発見や活用につながるような情報の提供を目的として、拠点間(Door to Door)の経路や運航情報等が網羅的に一括で検索できるシステムを構築する。

モーダルシフト船の運航情報等一括情報検索システム(案)

- 海運の短期顧客を含め、今まで海運をあまり利用してこなかった者に対して海運利用の最初の入り口としてシステムを活用してもらうことを主眼としつつ、長期顧客や普段海運を利用している者に対しても新たな経路の発見や活用につながるような情報の提供を目的として、拠点間(Door to Door)の経路や運航情報等が網羅的に一括で検索できるシステムを構築する。
- 上記を踏まえ、「拠点間(Door to Door)経路の検索」、「検索条件の詳細設定による航路の検索」「リードタイム等運航情報の表示」、「ユーザーIDなしで、誰でも利用可能」の4つの主な特徴を備えたシステムに関し、実証実験で使用したシステムを基にさらに検討を深める。

拠点間(Door to Door)経路の検索

- 自社の工場から配送先まで、海運を利用した経路の検索が可能となることで、新たなルートの検討が可能。検索結果に表示されるルート、乗継ぎ便の検索についてどのような設定が望ましいか今後の検討を踏まえ見直しを行う。

システム検索結果

例: 群馬から熊本への運航情報等を検索した場合

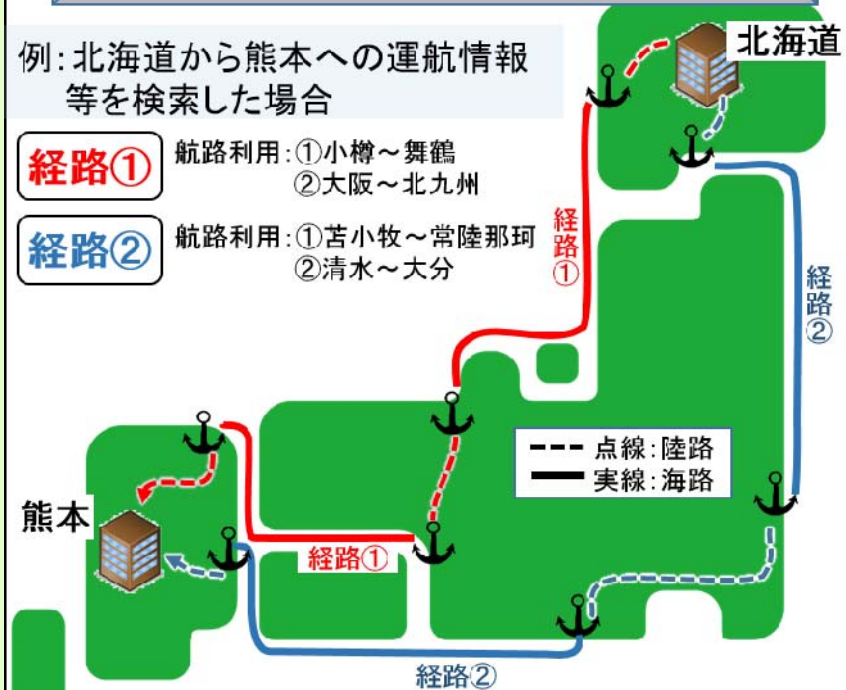
- 経路①** 航路利用: 大阪~北九州
リードタイム: 短 CO2排出量: 多
- 経路②** 航路利用: 東京~博多
リードタイム: 長 CO2排出量: 少
- 経路③** 航路利用: 仙台~東京
(表示せず) 非現実的な経路は表示除外



乗継ぎ便の検索イメージ

例: 北海道から熊本への運航情報等を検索した場合

- 経路①** 航路利用: ①小樽~舞鶴
②大阪~北九州
- 経路②** 航路利用: ①苫小牧~常陸那珂
②清水~大分



モーダルシフト船の運航情報等一括情報検索システム(案)

検索条件の詳細設定による航路の検索

- 船社名、船名、便名、船種、積荷種別(コンテナ、シャーシ等)、積荷(冷凍、危険物等)などで検索条件を詳細に設定して検索が可能。検索条件についてどのような設定が望ましいか、今後の検討を踏まえ見直しを行う。

輸送貨物の検索条件設定

検索条件 (基本条件)

積荷種別

積荷

積荷サイズ (重さ・長さ) t m

基本条件は利用者が航路を比較検討する場合の要素であるCO2排出量の表示に最低限必要となる条件を設定。

検索条件 (詳細条件)

運航船社

フォワーダー

集荷・配送

引受形態

バンニング・デバンニング

輸送資材の手配

詳細条件は基本条件に加えて、ルート絞り込みを行うに当たって任意で設定できる追加条件を設定

リードタイム等運航情報の表示

- 海運を利用した場合の目的地の到着時間やトータルの所要時間、CO2排出量を表示することで、輸送手段選択の検討の目安となる。表示範囲・順序について、どのような設定が望ましいか、今後の検討を踏まえ見直しを行う。

検索結果に表示される情報

例: ある経路を40ftコンテナで週3便の輸送をする条件での検索した場合

	船種・船社	運航スケジュール	発地 出発時刻	所要 時間	トータル 距離	CO2 排出量	目安 運賃
① 詳細	コンテナ船 〇〇海運	月火水木金土日 週3便	出航当日 〇時〇分	20時間 30分	1054km	1.21 t-co2	〇～〇 万円
② 詳細	RORO船 △△海運	月火水木金土日 週6便	出航前日 △時△分	35時間 10分	1278km	0.69 t-co2	〇～〇 万円

区間ごとの所要時間等の情報、航路の運航船社、引受可能貨物等の追加情報を表示する

表示されている検索結果をさらに絞り込み条件設定可能。
例: 出発時刻を午前中に限定
海運会社や利用船種を指定 等

絞り込み

ユーザーIDなしで、誰でも利用可能

荷主・運送会社等(利用者)

=ユーザーIDなし(事前登録不要)で直接検索開始画面に遷移

海運事業者等(情報提供者)

=IDとパスワードでログインし、
自社便の情報登録・変更用のメニューを表示

次年度以降の主な課題

1. システムの内容について

- 検索条件の設定や結果の表示範囲・順序について、どのような設定が望ましいか。
- 運賃や空きスペース等、登録情報については、どのような形で掲載するのが望ましいか。

2. システムの運営について

- 主体、費用、情報の集約や更新体制について、いかにすべきか。

3. システムの普及促進方策について

- システムの周知やPR方法は、どのような形が効果的か。(例えば、業界紙への掲載、各社HPへの掲載、パンフレット作成、セミナー開催等)
- 参加船社を増やすには、どのような方法が考えられるか。

平成30年度

平成31年度

協議会

第2回協議会 (5月頃)

- モーダルシフト船の運航情報等一括情報検索システム構築WGの結果報告
- 本格運用に向けた検討事項の提示

第3回協議会 (11月頃)

- モーダルシフト船の運航情報等一括情報検索システム構築WGの結果報告
- 本格運用に向けたシステムの管理体制等の検討

第4回協議会 (5月頃)

- モーダルシフト船の運航情報等一括情報検索システム構築WGの結果報告
- 本格運用の実施状況の報告

システムWG

第4回WG (7月頃)

- これまでの議論を踏まえたシステム改修案の検討
- 本格運用に向けた課題の整理・検討

第5回WG (9月頃)

- これまでの議論を踏まえたシステム改修案の検討
- 本格運用に向けた課題の整理・検討

第6回WG (1月頃)

- 実証実験の結果検証
- 本格運用に向けたシステムの要件とりまとめ

← 実証実験 →